自治区連会報

第６６号

編集発行人
下妻市自治区長連合会
広報編集委員会

住み続けたい地域づくりに向け講演会を開催

自治区長連合会副会長　広　瀬　元　二

令和7年11月1日、下妻市立図書館において東京都立川市の大山自治会で相談役を務める佐藤良子（さとうよしこ）さんを講師に招き、「住民が参加したくなる自治会活動とは」をテーマに講演会が開催されました。自治区長、代表区長をはじめ約60名の皆さんが参加しました。

佐藤さんは現在85歳ですが30代からの15年にわたり、住民１６００世帯という大きな団地の自治会長を務められました。就任当初はさまざまな困難があったそうですが、乗り越えるために協力してくれる女性の会もつくりました。そして住民一人ひとりの意見とコミュニケーションを大切にし、住民が自治会活動に参加し住み続けたいと思う地域づくりを目指してきました。大所帯の大山自治会でありながら在任中に加入率１００％や、見守りネットワークによる孤独死ゼロも実現しました。

私たちも佐藤さんが行ってきたように、住民の意見を大切にし、住民一人ひとりから出されたアイデアを検討し、それが良ければ取り入れる。そんなことを繰り返したら理想の自治会づくりに近づけるのではないでしょうか。

現在85才とは思えないほど若々しくバイタリティに溢れる佐藤さん。これからもお元気で貴重な経験談を多くの人に伝え続けてほしいと思いました。

◀クイズの景品は、地域の皆さんと作った手芸品。

下妻市表彰式において一般功労表彰を受賞

１０月７日、下妻市役所において、令和７年度下妻市表彰式が行われ、代表区長または自治区長を通算１０年以上務め退任された方が、一般功労表彰を受賞されました。おめでとうございます。

一般功労表彰（地方自治の進展）

◆代表区長
本橋　勇夫（桐ヶ瀬）
外山　一夫（大木）
故 國府田　勝雄（加養）

◆自治区長
菊地　郁夫
（新町・砂沼新田）
森　正弘（横根）

※敬称略　　※（　）内は、代表区の名称

自治会活動に参加しましょう！

対話集会を開催しました

九月二十七日と十月十八日の二日間にわたり、「区長と市長の対話集会」を開催しました。地域に身近な課題の要望・提案はもとより、市政全般への質問・提案も出され、活発な意見交換が行われました。発言内容の一部を紹介します。

千代川会場にて（出席者34名）

Ｑ　ライドシェアの普及には、制度全体の見直しが必要であると考えています。仮想停留所の数が十分でない点を改善するとともに、停留所名や時刻表の掲示を行うよう求めます。利用拡大のため、買い物や通院など、具体的な利用モデルを示すことを提案します。

（別府本田・中島忠司代表区長）

Ａ　ライドシェアの停留所が分かりにくいというご指摘は承知しており、公共施設や駅など、可能な場所から順次、目印となる表示を整備していきます。また、無料チケットの配布などのキャンペーンも実施し、周知と利用促進を進めます。仮想停留所は、自宅前など指定した地点まで車両が来る仕組みであり、タクシーに近いサービス形態となっています。今後、利用状況の拡大に応じて、全市展開を目指していきます。

下妻会場にて（出席者46名）

Ｑ　防災講話の内容に、ライフライン（電気・水道）に関する具体的な対策を、実例を交えて盛り込むことを提案します。一例として、大規模断水時の補完策として、浅井戸に蓄電池と１００Ｖポンプを組み合わせて一時的な給水拠点とする仕組みを提案します。

（松岡・寺田勇代表区長）

Ａ　災害時には、電気・水・食料の確保が重要であり、とりわけ電気を重視して、避難所への蓄電池の配備や太陽光発電設備の導入を一層進めてまいります。相互支援の仕組みや資機材への支援制度等は、今後の課題として検討し、優先順位を踏まえながら整備を進めることで、より満足度の高い防災体制の構築を目指します。

◆活動日誌◆

◆令和7年◆

9月10日　自治区連会報（第65号）発行
9月19日　正副会長会議
9月27日　区長と市長の対話集会（千代川会場）
10月9日　県自治会連合会　講演会（於水戸市）
10月18日　区長と市長の対話集会（下妻会場）
11月1日　講演会
11月7日　役員会・広報編集委員会
11月8日　小貝川ふれあい公園花畑ポピー種まき作業参加
11月22日　総合防災訓練参加
12月20日　防災講演会参加・懇親会

◆令和8年◆

2月10日　自治区連会報（第66号）発行
3月13日　理事会　※予定
4月24日　総会　※予定

編集後記

私が防災を意識し始めたのは、自衛隊員として災害派遣に出動し、現地の被災状況（神戸上空からの焼け野原の街並み、新潟県山古志村の路上への養殖鯉の散乱など）に直面したことがキッカケでした。

災害派遣の仕事は、人命救助活動や生活支援活動など幅広い範囲となりますが、いずれも災害発生後の対応です。しかし、防災を知るうちに災害への事前対策が最も重要であることを認識したのです。

私たちは阪神・淡路大震災の経験から、「自分たちの町は自分たちで守る」という教訓を得ました。そして、この震災を契機に自主防災組織の設立が全国的に推進されました。

同震災で救助された方の脱出方法の割合を見ると、自力脱出・家族救助が６６・８％、友人・隣人・通行人による救助が３０・７％、救助隊などによる救助が１・７％です。即ち、住民や近所同士の助け合いが重要だと分かります。加えて、家具の固定など屋内の防災対策を行っていたなら、より多くの方の命が救われていたと考えられます。

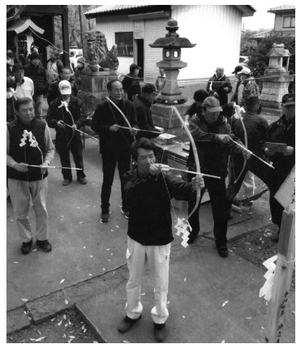
個人や隣同士による防災対策が自助・共助において重要です。そのためにも、日頃から自治区内の意思疎通・相互理解を拡張し、隣近所で助け合う精神を醸成しましょう。

（広報編集委員長　笠島昇治）

自主防災組織を作りましょう！

絆、みんなで繋ぐ地域づくり
－上妻支部－

江地区は「世界でも最短地名」です。千年以上の歴史のある神明両社、薬師三仏堂の例祭行事も行っています。伝統文化の継承を含めた地区運営体制を見直し、無理のない協力し合える地域づくりを実行しています。若い人たちが積極的に参加できるように消防団含め各種団体が参加した総会を行っています。１１月２３日には美化運動奉仕作業及び例祭流鏑馬祭りを行い、邪気を祓い除き、無病息災、安全祈願を行いました。伝統行事を含め地区の安心安全のため自主防災会をつくり災害に強い地域づくり「絆、いつも笑顔で元気　みんなで繋ぐ地域づくり」を目標に実行しております。



水神社の紹介
－大宝支部－

大宝駅の南、糸繰川沿いに鎮座する水神社をご紹介します。

昭和３３年７月２１日、台風１１号の襲来により糸繰川が氾濫、１３０ｈａの水田が没しました。さらに１０日以上の溜水によって収穫皆無という甚大な被害をもたらしました。これを契機に糸繰川治水期成同盟が発足し、糸繰川中小河川改修事業が起工し、平成８年に完了します。水神社は、水を司る水波能売命（みづはのめのかみ）を祀り、今も地域の水田を見守っています。

変わり行く地元
－総上支部－

現在の総上支部では「総上・豊加美ほ場整備事業」が行われており、また古沢地区では「しもつま中央工業団地」が２０２８年から操業との事です。新しく大きな工場が出来、農地が大規模化に集積されて、今までとは人と物資の流通が、どの様に変化してゆくのか想像し難く思います。この事を踏まえるとこれからの自治会運営がどう変わって行くのか、希望と多少の不安を持って、総上地区・下妻市の発展を願い楽しみに見守っていきます。

3mのしめ縄に願いを込めて
－騰波ノ江支部－

本田地区における祭りという行事は、生活の中に根付く大切な行事の一つです。その中でも特に秋の祭礼は、年の収穫を神様にお供えし、感謝するお祭りとして地域に愛されています。鎮守様には六神が祀られており、五穀豊穣や厄除け、無病息災、安寧などの祈りがこめられます。地区総出で境内を掃除し、３ｍのしめ縄を拵え装いを新たにし新年を迎えます。旧暦９月３０日が祭礼とされ、その直前の日曜日に行われています。

自治会活動に参加しましょう！

羽子自治会の活性化を目指して
－千代川支部－

羽子自治会では，自治会の活性化と住民の連携強化を目指し，自治会以外にいくつかの団体を設置しています。

サザンカの会は，敬老者を中心に月２回のレクレーションを実施し，ゴルフ会は，年間２回のコンペを行い，フラワー会では花壇の整備に努めています。みこし会では，若い世代が中心になり，夏祭りを企画運営しています。

これらの団体を中心に，忘年会なども企画されており，多くの住民の参加を願っています。

秋祭りの開催
－豊加美支部－

武甕槌命大神(たけみかづちのおおかみ)と経津主大神（ふつぬしのおおかみ）の二柱を祀る、加養の鎮守　鹿島香取神社の秋の祭祀が１１月２３日に催されました。氏子の代表が集まり、海の幸、山の幸をお供えし、日々の感謝と地域の安全・平穏を祈願いたしました。代々守り続けられている神社であり、「ちんち様」と呼ばれ親しまれております。

今後も伝統行事として大事に継承してまいります。

近くにお越しの際には是非ご参拝ください。

体験学習に参加して
－下妻支部－

下妻支部では、８月３日に会員２０名の参加のもと、埼玉県防災学習センターを視察し、「地震体験」「煙体験」「消火体験」「暴風体験」の体験学習を行いました。

「地震体験」では、震度７の揺れの体験を通して地震発生時の行動について学習し、「暴風体験」では最大風速３０m/sの風による暴風の迫力を実感することができました。

これらの体験を通して、参加者の意識の高揚と防災行動力の向上を図ることができたものと考えております。

小渡集落について
－高道祖支部－

国道１２５号線を筑波方面に向かうと、高道祖の東端に桜塚集落があり、この集落を縦断する市道を北に進み、坂を下ると小渡集落に辿り着きます。小渡集落の語源は、往古渡津（古くは渡し場として栄えた集落）の古渡（こわたり）が当てられました。小渡と筑西市赤浜を結ぶ「鳥羽の淡海」の渡し場として栄えた集落と思われます。平将門の時代にはすでに鳥羽の淡海は湿地帯となりましたが、千年以上前から自然災害に見舞われながらも郷土を守護し未来を切り開いてきた先人たちの思いが伝わり今に至ります。

画像：Google Earth

自主防災組織を作りましょう！